日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

第２８号
（２００５年3月２２日）

発行所：〒565-0871　吹田市山田丘１－２
大阪大学人間科学部　渥美公秀研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
電話＆Fax: ０６－６８７９－８０６６
発行人：渥美公秀　　編集担当：廣岡秀一

★★　*これからの学会を語る－雑誌改革の議論をきっかけに－*　★★

51回大会特別企画
『これからの学会を語る－雑誌改革の議論をきっかけに－』
報告書

【1】企画概要

日時：2004年5月9日11時40分～13時（51回大会・第2日目）
場所：南山大学
参加者：40名（以下の4グループを編成）
　　学生会員1（学生会員7名），学生会員2（学生会員7名），
　　一般会員1（一般会員13名），一般会員2（一般会員13名）
手順
- 企画開始時に、参加者に対し、本企画の趣旨説明（渥美会長より）
- 資料として、会長からの提案（資料1）、及び、理事の先生方からの意見（資料2）の2点を配布
- 議論の形式：参加者が自らの意見を付箋紙に記し、それらをB判全紙に貼付
　提案への賛否を明確にするため、付箋紙は、会長からの提案に対して、「賛成」「反対」「どちらでもない」の3色を用意。1人の参加者から複数の意見を出すことは自由。

機関誌の改革に関する提案：骨子（資料１）

日本グループ・ダイナミックス学会
会長　渥美公秀

学会機関誌は、学会の顔です。私は、日本グループ・ダイナミックス学会が、実験社会心理学の研究以外にも、ますます多様な顔を見せるようになってきたと感じています。もはや、「実験社会心理学研究」という顔では、学会（員）の研究活動と顔（＝雑誌名）とが合わなくなってきていると感じています。もちろん、今までの実験社会心理学的な研究が、意義を失ったなどと言いたいわけではありません。これまでの研究が多様化し、さらに新しい要素が加わってきたということです。現状では、“名が体を表していない”ことは否めないと思います。

「実験社会心理学研究」という名称を採用した当時(1971年)は、グループ・ダイナミックスが、実験的手法をもとにした行動科学の１つとして社会から期待された時代だったと思います。しかし、近代以降の科学の枠組みに行き詰まりが指摘されて久しく、様々な分

野で新たな展開（転回）が生まれてきていることは改めて指摘するまでもありません。また、社会と研究活動との関わり方についても、従来のあり方が厳しく問われていることを誰もが感じずにはいないでしょう。学会としても、こうした流れに対応すべきだと考えます。
では、“ 名が体を表していない ” 現状は、どのように打破すればいいでしょうか？ 私は、以下の４つの提案をいたします。

提案（１）：雑誌名を変更する。
提案（２）：新雑誌名を「グループ・ダイナミックス研究」(Japanese Journal of Group Dynamics)とする。
提案（３）：雑誌にセクションを設ける。例えば、実験・調査研究、事例・フィールド研究、展望等（詳細は、今後検討）
提案（４）：副編集委員長が各セクションを担当する。

上述の流れを踏まえますと、時代にあった誌名を選ぶべきだと思います。ただし、時代が変わったと称しては学会誌名の変更を繰り返すという愚は避けたいと思います。そこで、これを機に、今後の変化にも耐えうる誌名にしておきたいと思います【提案（１）】。それは、実は、学会名である「グループ・ダイナミックス」ではないでしょうか。私は、多様な研究を包含する学会の機関誌名として、これまでの「実験社会心理学研究」にかわって「グループ・ダイナミックス研究」(Japanese Journal of Group Dynamics)を採用することを提案します【提案（２）】。
多様化する研究の流れを総称してグループ・ダイナミックスとし、雑誌名を「グループ・ダイナミックス研究」に変更することは自然だと思います。ただ、メタ理論のレベルで立場を異にする諸研究に対して、総称を設定するだけで事足れりとするのは、いわば看板の掛け替えをしたというに過ぎません。この雑誌に投稿される会員の皆様にとっても、この雑誌を購読してくださる会員や図書館（を通じた読者）の方々へのサービスとしても、より親切な雑誌でありたいと思います。そこで、学会誌の誌面を、「実験・調査研究」、「事例・フィールド研究」、「理論研究」（名称について、ご意見をお待ちしております）という３つのセクションに分けることを提案します【提案（３）】。これは、相互にある程度独立したセクションとし、それぞれにセクション・エディターをおくことを想定しています【提案（４）】。ちょうどJPSPのセクションのように考えて頂ければよいかと思います。

理事の意見（資料２）

「会長提案」（資料１）に対して、理事のメーリングリストに寄せられた意見を、常任理事会で集約・整理、理事各位のご了解を得て掲載いたします。

【賛同、どちらかと言えば賛同する意見、および、その理由】
- 提案すべてに賛成。理由は、会長の提案理由に同じ。
- 提案すべてに賛成。今回の改革により、日本社会心理学会および『社会心理学研究』との違いも明確になると期待。
- 提案すべてに賛成。看護や企業組織関係者に、投稿先の名称（現在の雑誌名）に戸惑うとの意見もある。
- 趣旨は理解。
- 雑誌名が論文内容とフィットしない点は同感。
- 提案（3）と提案（4）には賛成（その他は反対）。
- 基本的に賛同。これまで「実験」にも「社会心理学」にもあるいは「心理学」という母体自体に対しても所属感をもたない、新たなメンバーを発掘する前向きの動きとして理解できる。

【反対、どちらかと言えば反対する意見】
- 現名称に違和感を覚える会員がいるのと同様に、新名称に違和感を覚える会員もいると予想される。
- 新名称にも現在と同様の問題が生じるのではないかと危惧。逆に投稿しにくくなる会員もある程度の割合で存在する。

・日本グループ・ダイナミックス学会という学会名称でありながら、「教育社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」の名称であったことも遡って辿ってみる必要もある。
・一定の「ブランド」的意味を「実験社会心理学研究」は持っている。
・三隅先生は（会長のご意見とは異なり）グループ・ダイナミックスは実験社会心理学の一領域を構成するものであると考えていたのではないか。これまでの「実験社会心理学研究」の発展は、このような緩やかさを土壌としてこそ実現されたものであると信じる。会長提案はこの豊かな土壌を放棄しようとするものであると感じる。
・雑誌名称の議論以前に、現会員が「グループ・ダイナミックス」ならびに「実験社会心理学」をどのようなものと捉えるかについて議論がなされなければならない。
・「実験的研究（ないし実証研究）」と「フィールド研究・理論研究」といった二分法（であれ、三文法、n 分法であれ）の根拠が必ずしも明白でない。学会がこうした「部門」のようなカテゴリー枠をはめることには、かなり入念な思考と議論が必要と考える。
・すでに、実際、多様な論文がすでに掲載されているし、新たな会員もそうした実態がわかれば、「実験」という言葉があっても多様な論文を投稿できるはず。提案には、多様な立場の会員を増やそうという趣旨が含まれていると思えるが、学会や雑誌の雰囲気が変わる可能性もある。
・（提案３と４に賛成するが）１と２には抵抗を感じる。現雑誌は、その質に対する信頼性が高い。新しい雑誌名による投稿論文の質の低下を危惧。新雑誌は通りやすいとの印象を受ける人も多い。あまり学際性をアピールしすぎたりすると、方法・理論などの一貫性が保たれなくなり質の低下を招く。

【提案方法や今後の手続きに関する意見】
・理事会・総会で審議する前に会員全員に対して往復葉書等によって意見を求めることが必要。と考える。
・理事会・総会に出す前に、全会員に提案の趣旨説明をするのが妥当。
・前大会時の懇親会における会長挨拶の際に先駆け的に提起されたが、唐突に感じた。
・事前に一般会員を対象に、調査を実施し、結果を集計するなどして広く、その声を反映した形で結論をだすべき。
・理事間の意見交換で、理事に多様な意見があると判明。問題は、それを共有しているのが一部の限られた人だけという点にある。ジャーナルに関する重要な問題は、なんらかの形で会員の直接の意見を尋ね、また十分な意見交換の場を設けるべき。
・学会員すべてが参加する議論の輪を広げることがまずは大切。そのような議論を起こし、この学会がそしてこの学そのものが自己の基盤に対してリフレクトするよい機会として今回の提案をとらえるべき。

【その他】
・「Society for Experimental Social Psychology」、「Asian Association of Social Psychology」においても同様の課題が最近浮上したこと、同時に、この種の問題に対して、一般会員の関心があまり高くなかったことを思い出す。結果として、前者は、雑誌名に「experimental」を戴き、後者外した。
・雑誌名の変更は、おそらく、現会員の一部の退会、逆に、新しい会員の入会を招くことにはなるだろう。
・会長の意向はよく理解できる。しかし、学会誌の名称の問題を議論していけば、単にこれだけの問題に終わらず、学会そのものの性質（あり方）に関する議論にもなっていくのではとの心配もある。大きな混乱にならないか懸念。よって、現段階で学会員に問題提起をすることがいいかどうか判断しかねる。

【2】結果概要

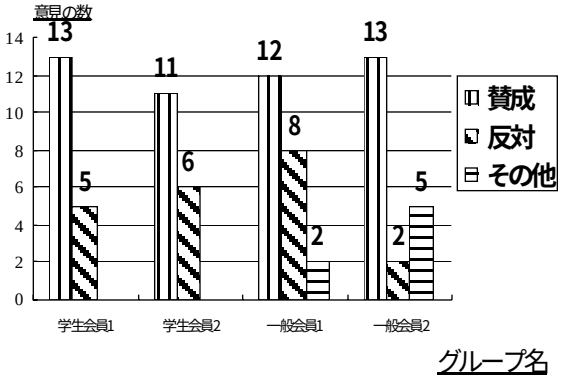
[2-1] 提案：『雑誌名変更（「実験社会心理学研究」⇒「グループ・ダイナミックス研究」）について

賛成意見総数：49／反対意見総数：21／その他の意見総数：7（グラフ1）

主な賛成意見：

「学会名（日本グループ・ダイナミックス学会）と、機関誌名（実験社会心理学研究）は一致させるべきだ」,「(学会名と機関誌名が別では) 分かりにくい」,「ギャップがある」,「(学会名と機関誌名は)同じである方が自然」,「研究の手法が『実験』だけではないことを示すべき」,「フィードワークをしている際に、当事者・実践家に説明をしにくい」,「誌名を変更することで、より幅広い分野からの投稿が望めるのではないか」

グラフ 1　提案「雑誌名変更」に対する賛否の数



主な反対意見：

「誌名を変更することで、退会する会員が出るのではないか」,「『実験社会心理学研究』というブランド・伝統を考えると、簡単に変えるのは問題」,「(実験社会心理学研究という名称で) 既に定着している」,「グループ・ダイナミックス研究とした場合に投稿しにくくなる会員が生じる」,「(誌名変更により) 投稿論文の質が低下するのではないか」,「何故『今』変えるべきかという説明が不足している」

その他の意見：

「誌名変更は、学会の基本趣旨にマッチする方向をめざすべき」,「全会員による賛否の投票を行うと良いと思う」

[2-2] 提案：セクション導入（学会誌内にセクションを設け、論文の内容ごとに分類）について

賛成意見総数：8／反対意見総数：12／その他の意見総数：5（グラフ2)。

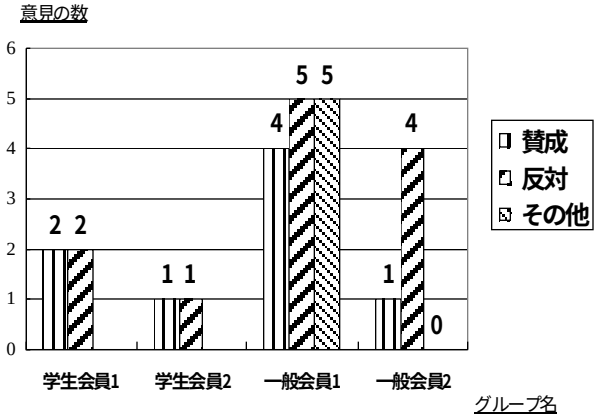
主な賛成意見：

「セクションを設けることで、投稿しやすくなるのではないか」,「(実験系以外の方法を取って研究をしている会員にとって) 安心感がある」,「これまで出しにくかった論文が出せるようになるかもしれない」

主な反対意見：

「現在の投稿状況からいって、セクションを設ける必然性がない」,「セクションを設けることでタコツボ化する」,「セクション間に上下関係があるかのように受け取られやすい」,「投稿数の多いセクションが不利になるのではないか」

グラフ 2　提案「セクション導入」に対する賛否の数



その他の意見：

「セクションを分けなければならない必然性が見えません。具体的な問題があればそれを教えて頂きたい」,「論文のジャンルが固定されてしまう危険性がある。変更可能性を担保する必要がある」,「セクションを設けたときの運営方針が不明だと賛成しにくい」

[2-3] その他の意見

意見数：学生会員2；6／一般会員1；12／一般会員2；2

『雑誌改革』の手続きの問題について：
「慎重かつ丁寧に手続きをふむべきだが、ダラダラとくすぶり続けるのも問題。一定の期限を定めて会員の総意を問うてほしい」,「手続きについて。最終的な結論を出す前に十分に議論をつくし、さらに全会員による投票によって決すべき」,「これまでの実績・評価を考えると拙速との話が出ないようにした方がいい」
機関誌の審査や論文の内容に対する意見：
「一番問題なのは審査のあり方。明らかな誤りのみを指摘すべき。そして原則掲載すべき。のったものを議論する。『○○研究』にのったことが権威となること自体がおかしい」,「隣接領域（たとえば社会学）との関連の検討が十分でない研究が多くなっているわりに、領域内の既往研究が精密でないのはよい傾向でない」
学生会員からの意見・提案：
「超過ページ代を下げて欲しい。ページ単価orページ数上限（無料分）の変更」,「若干にも優秀な論文は専門家の手で英文化し、AASPに掲載されるといったメリットがほしい。」
本企画（51回大会特別企画）のようなセッションの必要性・重要性：
「学会のセッションorでもこうした形でのフロアと発表者がよりインタラクティブに意見交換の出来る機会があると良い」,「オンライン・ジャーナルについて、雑誌名称の変更と同じくらい重要なことなので、今回のような機会をOLTについてももったほうがよかったのではなかったか」

【3】学会誌の今後に向けて

今回の企画では、『雑誌改革』に関して、徹底的な反対を表明する意見は少なかった。様々な条件や要望はあったが、時代の流れに合わせて機関誌の内容を柔軟に変化させていくことに、多くの参加者は賛意を表していたと言える。企画への参加者は40名であり、全会員から比べれば少数ではあるが、参加者一同、本学会に対する強い思いをお持ちの方々ばかりであった。特別企画で出された意見の全ては、今後の学会運営、及び機関誌のあり方を考える上で、大変貴重なものであると言えるだろう。

★★　２００４年度第１回　常任理事会・常任編集委員会議事録　★★

日時：2004年11月28日　13:00-16:00
場所：キャンパスプラザ京都
出席者：渥美・大橋・大渕・山口・矢守・吉田（欠席：廣岡）

常任理事会

【報告事項】

総務
１．日本心理学諸学会連合について
　会長から報告があった
２．名誉会員推戴
　資料に基づき、事務支局に役員履歴についても機械的にチェックしてもらう方がいいのではないかと指摘があった。
３．科研費申請
　会長より申請済との報告

広報
１．ぐるだいニュースの発行

次号は、雑誌改革WSの報告、次大会の案内

l　会計・事務

１．会員異動
事務支局からの資料と回覧した。
２．発送事務（実験社会心理学研究およびAJSPの届け出について）
事務支局と協議していくこととした。
３．事務業務覚書更新について
資料に基づき、事務支局と協議していくこととした。

その他
１．監査報告
今期について作業の遅れがあったが終了。ただし、総会のタイミングもあって、決算、今進行中予算、次期の予算、のまわりが年度と合っていない。根本的な改変が必要と合意したので、今後至急検討していくこととした。

ワーキンググループから

大会関係
準備が順調に進んでいる旨、報告があった。
雑誌改革
１．南山大会特別企画のとりまとめ
報告書（案）について報告。今期はここまででいいのではないか。NLで公告し、さらに議論を深めることが大事だと判断した。次は、「手続き」の提案を行っていく方針で合意した。52回大会　2日目の昼休みにWSを企画する。より論点を絞って、それを承けた（新）会長の方針などを含める。

事務移行
１．学会事務センター倒産後の経緯
この間の経緯について会長より報告があった。
２．メディッシュへの委託について
会長より、事務支局とも相談して委託したことが報告された。
会員資格
看護師やNGO関係者などの領域からの参入者、協力体制を組むのはもう遅すぎるくらいであって、今後積極的に実施することとした。渥美会長から大橋常任理事に提案し、詳細を固めていくことにした。心理臨床学会など関連学会の会員体制などについても調べておく必要があろうということで一致した。

倫理規定
１．倫理規定に関する原案
吉田常任編集委員より提案があり、案としてNLに掲載することとした。次回の理事会、総会という順で成案とする。

選挙・選挙改革
現在実施中の選挙について大渕常任理事より報告があった。今城委員長、飛田委員、小林委員（選挙管理委員）。役員選挙までは事務作業中西印刷、それ以降は事務作業も大渕常任理事にお願いした。

渉外
１．日本心理学諸学会連合
山口常任理事より現状について報告。心理学検定について出題委員を出して欲しいということだったので、常任理事をだしておくこととし、その他は会長に一任した。

【審議事項】

１．日本学術会議会員候補者の依頼
会長より提案があり、了承した(具体的な氏名等は議事録では非公開とする)。
２．日本心理学諸学会連合委員について
会長より提案があり、了承した（具体的な氏名等は議事録では非公開とする）
３．三隅賞選考委員の選出について
当学会からは、渥美会長、大渕常任理事、山口常任理事を選出し、アジア社会心理学会からの2名について打診することとした。
４．AASP大会参加奨励賞創設
会費値下げのプラン（年会費、大会参加者費。一般の論文掲載料無料などのプラン）とは別立てで議論することとした。選考委員は会長から若干名委嘱。詳細は、矢守常任理事からの提案を受けることとした。
５．会計システムの改善について
会計専門家の導入を検討することとした。

バックナンバーのオンライン化推進
予算執行の動向を見ながら、新しい巻から遡ってオンライン化作業を進めることを確認した。

その他

常任編集委員会

【報告事項】

実験社会心理学研究、Asian Journal of Social Psychologyの編集状況について報告があった。

【審議事項】

特集について（遠藤案、大渕案、矢守案）
3つの案が提出されていたので、検討した結果全て採択した。同時に動かして初めて、原稿が出て審査が終わり出来上がった順に発刊するものとした。「主査＝特集担当者、副査をもう1人。公募はしない」ことを申し合わせた。特集の論文の審査・編集体制は、明文化されていないので、過去の申し合わせなどを再度振り返るとともに、今回の３つの特集については、この申し合わせのもとで編集することにした。

優秀論文賞選考について
規定通り、選挙等を実施することを確認した。

掲載論文のオンライン化許諾問い合わせについて
現在投稿中のものは規定にあり問題ないが、かなり以前に投稿されたもの、ずっと前のもの（バックナンバー）についても、本来は、許諾をえるべき。具体の作業は、中西に依頼する。

投稿・審査状況について
掲載済み5本、審査中23本、掲載不可8本

迅速な編集システムについて
審査が大幅に遅れている。迅速化のために、例えば、主査選定段階での郵送の省略、Reject率がやや高いので審査の方針をエンカレッジする方向で見直すなど、次期編集委員でいま一度確認・共有するよう申し送ることとした。

以上

★★　日本グループ・ダイナミックス学会第５１回大会収支報告　★★

日本グループダイナミックス学会第５１回大会収支報告

2005年1月27日

【収入】			【支出】	
振込予約（返金除く）	1,969,000		印刷費	1,140,796
当日収入	1,274,500		郵送料	280,105
賛助企業	185,000		会場設営費	395,745
その他支援費	300,000	グルダイ	弁当代	272,850
	200,000	南山大学	講師等謝礼	200,000
	150,000	大幸財団	アルバイト	685,880
理事会企画講師謝礼支援	60,000		懇親会	641,242
論文集買取（学会事務センター）	115,500		大会委員会会	78,150
利息	2		事務雑費	359,234
収入合計（現在）	4,254,002		寄付･返還	200,000
収入合計	**4,254,002**		**支出合計**	**4,254,002**

★★　日本グループ・ダイナミックス学会２００５-２００６年度役員選挙　★★

日本グループ・ダイナミックス学会2005-2006年度役員選挙の経過と結果について、選挙管理委員長の今城周造先生よりご報告をいただきましたので、ここに転載させていただきます。

会則細則第6章「役員選出規程」に従って、2005-2006年度の新役員選挙を行ったので、その経過と結果を以下に報告する。

実施期間	実　施　事　項	資料
2004年9月28日～10月20日	全会員を対象に、選挙台帳の確認を郵送により実施。	
11月15日～12月2日	投票権のある会員778名を対象に、会長、理事、及び監事の選挙を郵送により実施。	
12月7日	東北大学にて開票。投票総数226、投票率29.05%、有効投票数213、無効13。地区別理事で当選された方1名が辞退されたので、次点者を繰り上げた。	表1 表3
12月26日～31日	選出された理事を対象に、会長指名理事2名の信任投票を電子メールで実施。いずれも信任された。	表3
2005年1月7日～18日	新選出理事の互選による常任理事選挙を郵送で実施。	
1月20日	東北大学にて常任理事選挙の開票を行い、4名の常任理事が選出された。	表2
1月26日～31日	選出理事を対象に、会長指名常任理事2名の信任投票を電子メールで実施。いずれも信任された。	表3

これら一連の選挙の結果、最終的に表3に示すように、山口新会長を始め、6名の常任理事、21名の理事、2名の監事を含む新役員が確定した。これらの方々に、以後2年間にわたり本学会の運営を委ねることになります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、約5ヶ月にわたるこの選挙の期間中、ご協力いただいた会員の皆様方に、選挙管理会を代表して感謝申し上げます。

選挙管理会委員長

今城　周造

＜　表1　＞

会長･理事･監事選挙結果

開票

日時:　2004年12月7日午後5時～10時
会場:　東北大学大学院文学研究科心理学研究室

投票総数

	投票総数	有効投票	無効投票
北海道	11	10	1
東北	13	12	1
関東	51	49	2
中部	31	30	1
近畿	67	61	6
中国･四国	22	21	1
九州	24	23	1
沖縄	7	7	0
計	226	213	13

無効投票の内訳

内封筒なし 11
内封筒未封 2

会長選挙結果

	氏　名	得票数
当選	山口勧	69
次点	渥美公秀	63
次次点	大渕憲一	26

監査選挙結果

	氏　名	得票数
当選	角山剛	31
当選	村田光二	29
次点	杉万俊夫	26
次次点	松井豊	10

全国区理事選挙結果

	氏　名	得票数
当選	林直保子*	65
当選	渥美公秀	64
当選	村本由紀子*	57
当選	坂田桐子	46
当選	細江達郎	35
当選	山口裕幸	35
当選	小口孝司	32
当選	八ッ塚一郎*	31
当選	永田素彦*	30
次点	辻本昌弘*	28
次次点	吉田俊和	24
次次点	村田光二	24
次次点	鈴木勇*	24

*40歳未満

地区別理事選挙結果

北海道			東北			関東		
	氏　名	得票数		氏　名	得票数		氏　名	得票数
当選	鹿内啓子	6	当選	飛田操	4	当選	坂元章	6
次点	今川民雄	3	次点	今城周造	3	当選	相川充	6
次次点	渡邊芳之	1	次点	辻本昌弘	3	次点	伊藤哲司	5
			次次点	木村邦博	1	次次点	竹村和久	4

中部			近畿			中国･四国		
	氏　名	得票数		氏　名	得票数		氏　名	得票数
当選	高井次郎	11	辞退	釘原直樹	16	当選	青野篤子	6
次点	津村俊充	7	当選	吉田寿夫	12	次点	深田博巳	4
次次点	唐沢かおり	3	当選	石井滋	9	次点	渕上克義	4
次次点	西田公昭	3	次点	遠藤由美	8	次次点	坂田桐子	3

九州			沖縄		
	氏　名	得票数		氏　名	得票数
当選	吉田道雄	13	当選	金城亮	5
次点	黒川正流	1	次点	東江平之	1
	ほか同点者8名		次点	中村完	1

常任理事選挙

開票

日時：2005年1月20日午後5時30分～6時

会場：東北大学大学院文学研究科心理学研究室

投票総数

投票者数17、投票総数68

選挙結果

＜　表2　＞

候補者名		得票数	
全国区理事	林直保子*		
	渥美公秀	10	当選
	村本由紀子*	6	次点
	坂田桐子	4	次次点
	細江達郎		
	山口裕幸	8	当選
	小口孝司		
	八ッ塚一郎*	6	次点
	永田素彦*	6	次点
地区別理事（北海道）	鹿内啓子		
（東　北）	飛田　操		
（関　東）	坂元章		
	相川充	6	次点
（中　部）	高井次郎		
（近　畿）	吉田寿夫		
	石井滋		
（中四国）	青野篤子		
（九　州）	吉田道雄	7	当選
（沖　縄）	金城亮		
会長指名理事	吉田俊和	7	当選
	笹尾敏明		

当選された4名の方すべてが常任理事就任を受諾され

2005-2006年度日本グループ・ダイナミックス学会役員一覧

＜　表3　＞

会長	山口勧
常任理事（選出）	渥美公秀
	山口裕幸
	吉田道雄
	吉田俊和
常任理事（指名）	村本由紀子
	相川充

全国区理事	林直保子*
	渥美公秀
	村本由紀子*
	坂田桐子
	細江達郎
	山口裕幸
	小口孝司
	八ッ塚一郎*
	永田素彦*
地区別理事（北海道）	鹿内啓子
（東　北）	飛田　操
（関　東）	坂元章
	相川充
（中　部）	高井次郎
（近　畿）	吉田寿夫
	石井滋
（中四国）	青野篤子
（九　州）	吉田道雄
（沖　縄）	金城亮
会長指名理事	吉田俊和
	笹尾敏明
監査	角山剛
	村田光二

*40歳未満

★★　会員移動　★★

会員移動（新入会員）

＜省略＞

会員移動（所属先変更）

＜省略＞

会員移動（住所変更）

＜省略＞

会員移動（退会）

＜省略＞

★★　事務局からのお願い　★★

◆実験社会心理学研究の特集テーマ募集
「実験社会心理学研究」には、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、読みごたえのある論文３編程度で構成します。特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書（Ａ４版１－２枚程度）を、編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議、決定します。
なお、「実験社会心理学研究」は、特集の掲載によって、一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をお含みおき下さい。詳細は事務局までお問い合わせください。
◆実験社会心理学研究の書評候補募集
事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

★★　広報担当からのお知らせ　★★

◆**JGDA_Flash**：グルダイでは【日本グループダイナミックス学会・広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash)を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約６００名です。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思いますが、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、グルダイ広報メールマガジン運営担当マスターのアドレス

office@groupdynamics.gr.jp

までお願いいたします。また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、

http://www.groupdynamics.gr.jp/cgi-bin/magbbs.cgi

で閲覧可能です。

★★　グルダイ学会関係連絡先　★★

2004年４月１日から、入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先が変更されています。以下の事務支局（中西印刷）にお願いします。

◆【事務支局】住所・所属変更、その他お問い合わせは、
中西印刷株式会社 学会部　（日本グループ・ダイナミックス学会担当：岡田）
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL: 075-415-3661　　FAX: 075-415-3662　e-mail:　jgda@nacos.com

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見は、
大阪大学大学院人間科学研究科　渥美公秀研究室
〒565-0871　吹田市山田丘１－２　　大阪大学大学院人間科学研究科
TEL・Fax: 06-6879-8066　E-mail：atsumi@hus.osaka-u.ac.jp

◆ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報などは、
三重大学教育学部　廣岡秀一研究室
〒514-8507　三重県津市上浜町１５１５　三重大学教育学部
TEL・Fax：059-231-9329
もしくは、E-mail：office@groupdynamics.gr.jpまでお送りください。
また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

◆学会事務局
大阪大学大学院人間科学研究科　渥美公秀研究室
〒565-0871　吹田市山田丘１－２　　大阪大学大学院人間科学研究科
TEL・Fax: 06-6879-8066　E-mail：atsumi@hus.osaka-u.ac.jp

（編集後記）■2期4年間にわたる広報担当常任理事としてのニュース編集業務をこの28号でお役ご免とさせていただきます。第19号から担当させていただきましたので、ちょうど10号（＋１号外）のニュースを編集させていただいたことになります。■インターネットメールを活用したFlashへ次第にその役目を移行しながらのぐるだいニュース編集でしたので、予定されていた号数を遙かに下回る発行数でした。インターネットでのニュース配信を、すべての会員の皆様にお届けできていない現状では、このぐるだいニュースにも重要な役割がまだまだ残されていたことを考えますと、ただただお詫びさせていただくしかないというのが今の心境です。申し訳ございませんでした。■新しい役員が決まりました。このニュースもおそらく新しい形に生まれ変わることになるのではないかと想像しています。■とまれ、多くの方々の貴重なご寄稿があってこそのニュースの編集でした。ご協力いただいた会員の皆様にはこの場を借りて改めて御礼申し上げながら、最後の編集を終わらせていただきます。■ありがとうございました、拝（廣）。

＜SPSS社広告（B5)＞

＜ナカニシヤ出版広告（B６）＞

＜北大路書房広告（B６）＞